

刊行にあたって

「わかっていないのに、わかっているふりをしてしまう」。

本書を手にとったみなさんも、何かしら身に覚えがあるのではないのでしょうか。これは、引っ込み思案でシャイなわが国の国民性といえるかもしれません。しかし、医療にかかわる者がわかったふりをして携わっている、患者を快方に向かわせるどころか、病態の悪化、あるいは新たな医原性のトラブルを惹起する事態にもなりかねません。

本書は、歯科医療のなかでも、とりわけ罹患率の高い歯周病をテーマとし、いまさら知らない、教えてほしいとはなかなかいえない初歩的なことから、知ったつもりになっていただけで実は奥が深く、理解していない場合が多いことまで、多岐にわたる100項目を集めました。どの項目も端的にまとめており、診療の合間でも目を通せるように工夫しています。

昨今、歯周病が及ぼす疾病と、歯周病に影響を及ぼす疾病の双方を含む概念である「ペリオドンタルシンドローム」が注目されています。これは、医学的な定義ではありませんが、歯周病と糖尿病や動脈硬化などの全身疾患との因果関係があきらかになりつつあるなか、医科と歯科がスムーズに連携するためのキーワードとなることが期待されます。したがって、歯周病治療に関する知識や技術のアップデートは、われわれ歯科医療従事者にとって、いままで以上に欠かせないことといえるでしょう。

本書が多くの歯科医療従事者に役立ち、患者の健康や笑顔へと繋がる一助になれば、望外の喜びです。

2018年2月
若林健史